

「甘くない」蜂蜜の世界



ハニーマスター 長坂 恭輔

PROFILE

長坂 恭輔 (ながさか きょうすけ)

浜松市生まれ。通信販売会社で2年間勤務の後、長坂養蜂場の3代目として地元浜松に戻り、養蜂に携わる。2010年常務取締役就任。明るく優しい人柄に地元のファンも多い。

訪れる人たちに蜂蜜の健康や美容への効果効能を伝えたり、蜂蜜を使用したレシピを商品に添えたりするなど、消費者目線に立った取り組みに積極的。すべての従業員がお客からの質問に答えられるよう、「ハニーマスターへの道」という独自の社内教育を行っているのもその一環だ。



長坂養蜂場は昭和10年の創業以来、空気と水がきれいな北区三ヶ日町で養蜂場を営み、その技術を3代にわたって受け継いでいる、老舗養蜂場。
2代目以降、花を追いかけながら採蜜する生産業から、小売業をメインにした事業方針へと転換し、会社の軌道を修正させた。
その背景には「蜂蜜を通してすべての人が健康になってほしい」という長坂兄弟の熱い想いと使命感があった。

3代目の長坂恭輔さんは、兄の善人さんとともに長坂養蜂場を営んでいる。恭輔さんの主な仕事は、受注システムや通販事業の拡大だ。
養蜂は環境の変化に左右されやすい。例えば採蜜期間に雨が降り続くだけで、生産量がゼロになってしまうのだ。そこで、生産に重きを置くのではなく、長坂オリジナルという付加価値をつけた商

品を積極的に展開することで、コストに消費者のニーズに応えられるスタイルにシフトチェンジしていった。「国産や自家製蜂蜜を大切にしながら『みなさんに、笑顔に、健康になってほしい』という気持ちにもこだわっていききたい。そして、自分の生まれ育った三ヶ日から蜂蜜への想いを、地元だけにとどまらず全国へ発信していきたい。手軽に購入できる加工

食品の開発とネット通販の拡大に力を入れる理由はそこにあります。
約50種類以上ものオリジナル蜂蜜商品が並ぶ長坂養蜂場は、地元の人から観光客まで、今日も多くの人でにぎわっている。蜂蜜を通して「笑顔に、健康になってほしい」という理念を貫き、カタチにしていく力は、訪れる人たちに対するぬくもりの精神から生まれているようだ。



長坂養蜂場
tel 0120-40-1183
浜松市北区三ヶ日町下尾奈97-1
http://www.1183.co.jp



みかん蜂蜜
フルーティーでビタミン・ミネラル豊富。
※6月上旬～下旬まで
り次第終了
2,980円(430g)



はちみつ&マーガリン
お取り寄せでも人気No1。
525円(165g)



巣蜜
パンやクラッカーにそのままのせても美味。
1,995円



はちみつ柚子
すっきりとした風味のフルーツジュース。水・炭酸・焼酎で割っても◎。
2,150円(500ml)

伝統を革新に

「伝統」とは、守っていかなければ消えてしまう弱い立場だと思われがちだが、決してそうではない。「伝統」という土台の上に「革新」を積み上げていくことで、むしろ、最先端をいく強い立場になり得るのだ。

時代とシンクロしつつも、伝統に基づくものづくり。

遠州綿紬の魅力は、確実に、次世代へと語り続けられるだろう。

江戸時代から織り始められたという「遠州綿紬」は、遠州地方の高湿多湿な気候の中で改良を重ねられ、明治の頃には人々の暮らしに生活着として根付いた。使い込むほどに風合いが増す、肌やさしい天然素材は、今なお、製造工程のすべてを浜松で行っている。近年では四季を感じさせる風合いの日本色（紺・深緑など）が注目を集め、伝統的な着物や和装、和小物だけでなく、有名ブランドとのコラボレーション商品や情緒あふ

れるお洒落なインテリアなど、幅広くブランドを展開している。代表取締役の大高さんはこう語る。

「私たち『ぬくもり工房』が発信するのは、遠州綿紬のすばらしさ。地元・浜松はもちろん、日本、そして世界中に遠州綿紬を広げていきたいんです。その活動はすでに始まっていて、ひとつが学校などを拠点に行っている社会学習。遠州綿紬の歴史や魅力を子どもたちに伝えることで、より身近に綿紬を感じてもらお



ストライププロデューサー
大高 旭

PROFILE

大高 旭 (おおたか あさひ)

有限会社ぬくもり工房 代表取締役
ストライププロデューサー
遠州綿紬を専門に開発・販売業務を行う。インターネット販売、卸販売のほか、イベントなどで使用する生地、インテリア、衣類、雑貨類の提案も。「綿紬を使用したノベルティグッズや記念品など、オーダー商品も取り扱っています。ぜひ一度ご相談ください」とのこと。

うと思っています。活動がどんどん浸透すれば、やがて『小さなお子様から高齢者まで、誰でも何かひとつ綿紬を使った商品を持っている』という状態になる。それが理想形です」。

今年11月には浜松の遠鉄百貨店本館5Fに、専門コーナーを開設するともに、全国の百貨店で期間限定販売などの販促活動を行っている。

「後継者不足の問題もあり、全盛期には300件あった遠州綿紬の機屋は、現在たった2件になってしまいました。それでも、私たちはじめ多くのデザイナーさんの協力もあり、出荷量は3年前と比べて倍以上になっています」。

大高さんの「まずはやってみよう」という浜松人の気質「やらまいか精神」に基づくフットワークの軽さと、時代のニーズに応える商品開発力は、綿紬を取り巻く数々の問題に全く屈していない。今後さらに遠州綿紬ブランドを発展させていくために、この情熱とパワーはますますキーポイントとなっていくと期待。



有限会社
ぬくもり工房

tel 053-489-4761
浜松市東区半田山2-24-3
10:00~17:00 土・日・祝祭日定休
<http://www.nukumorikoubou.com/>



あずま袋

和洋服どちらにも使える、やさしい色合いのあずま袋。折り畳み式なので、持ち運びも便利!
2,625円(税込)
50cm(H)×50cm(W)



スタンドライト NOPPO III

シェード部分に遠州綿紬を使用。温かく柔らかな光を演出する癒し効果抜群のランプ。
10,300円(税込)
37cm(H)×16cm(直径)



鍋つかみ

シンプルなデザインの鍋つかみ。持ちたい部分にかぶせるだけで、見た目もかわいく機能的。
945円(税込)
10.5cm(半径)



コットンストール

柄のバリエーションは100種類以上!用途に合わせて何本もストックしておきたいくなる、綿紬の一押し商品。
3,360円(税込)
36cm(W)×190cm(L)



フライトドクター 矢野 賢一

15分に賭ける

対峙するのは、1分1秒を争う命の現場。出動要請からヘリが離陸するまで約2分。現場到着後、15分以内に傷病者の状況判断と救急治療を行い、受け入れ病院に搬送する。ドクターヘリに課せられた使命は、初期治療までの時間を短縮すること。これにより救命率の向上や後遺障害の軽減、さらには医療費の抑制につなげていく。



総合病院が数多く存在し、「病院銀座」と称される浜松市。長崎県出身の矢野さんも「浜松の医療体制は本当に恵まれている」と太鼓判を押す。「地域医療という観点では、間違いなく日本トップクラスです。ドクターヘリも全国に先駆けて導入されていますしね。よく『やらまいか精神』という言葉を目にしますが、医療に関してもまさにその通り。積極的に新しいものにチャレンジしようという特性が根付いていると感じます。そういった環境の中でフライトドクターをやっているのですごく刺激的で、勉強になっていますね。」

間、限られたスペース、限られた人員の中で、的確かつ迅速に傷病者の評価をします。どんなイレギュラーな現場でも冷静さを保ち、最適な判断ができるかどうか懸かっていますね。また、医者という専門的な視点だけではなく、一般の素人の視点から観察できる能力も大切です。」

出動要請は年間500件弱。興味深いことに、その内3分の1がキャンセルになるといふ。理由を尋ねてみると、納得の答えが返ってきた。『重症かもしれない』『段階で出動しないと時間の短縮にならないからです。消防指令センターには『我々は飛び立つから、必要ないなら上空でキャンセルしてくれ』と伝えてあります。結果的に重症だった場合の対応が遅れるくらいなら、ひとまず出動する。助かる命を救うという大前提を考えれば、決してムダ骨ではありません。』

PROFILE

矢野 賢一 (やの けんいち)

日本救急医学会専門医
日本脳神経外科学会専門医
長崎県出身。ドクターヘリへの憧れと長年、急性期医療に携わってきた経歴・知識を生かし、6年前に聖隷三方原病院に移籍。フライトドクターとして地域医療の発展に日夜尽力している。プライベートでは、3男1女のパパ、趣味は、登山と釣り。



東日本大震災では、宮城県・石巻市立病院に取り残された病院スタッフ240名、患者160名をヘリで救出。悲惨な状況の中でも衰えない東北の人たちのタフな姿勢を目の当たりにし、「この人たちは絶対に復興できる!」と確信したという。

ドクターヘリを要請することは決して特例ではなく、むしろスタンダードにしていきたいと語る矢野さん。「命を助けるため」のスタンバイは、今この瞬間も万全である。



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院
聖隷三方原病院

tel 053-436-1251(代)
浜松市北区三方原町3453
<http://www.seirei.or.jp/mikatahara>



聖隷三方原病院 ドクターヘリについて

2001年10月、ドクターヘリ導入促進事業の運用を開始。医療機器を搭載した専用ヘリを1機常駐させ、静岡県西部地域を中心に半径50km圏内を出動エリアの目安としている。在籍するフライトドクターは、矢野さんを含め8名。静岡県は現在、夜間も運航できるドクターヘリの導入を検討しており(全国初)、聖隷三方原病院のドクターヘリの活躍が期待されている。



ヤマハ吹奏楽団サブマネージャー 堀場 信明

「好き」が 奏でる音

昨年創立50周年を迎えたヤマハ吹奏楽団。団員すべてがヤマハの従業員で構成される「職場楽団」である。

活動は毎週火曜と木曜の19時から。

通常業務を終えた団員たちが、

近郊の豊岡、掛川の各工場からも

楽団練習のために浜松本社に集まってくる。

そんな中、清々しい笑顔で

団員一人一人に声をかけるのは、

サブマネージャーの堀場信明さんだ。

と役割は、ヤマハにとっても浜松市にとっても決して小さなものではない。浜松音楽の都を体現する楽団。その位置づけても誇張ではないだろう。

ヤマハ吹奏楽団の役割を伺うと、そこには3つの側面があるという。1つ目は、会社の福利厚生として。2つ目は、「ヤマハ」と「浜松」の名を冠して演奏することによるブランドイメージの促進。3つ目は「『音』を扱う企業の職場バンド」という特異性を発揮しながら、音楽を通して社会に貢献していくことだ。「団員の8割が管楽器の生産に携わっています。その他の団員もピアノの生産だったり、楽器の設計だったり、リペアマンだったり。つまり、団員みんなが演奏のスキルとは別に、職人的な楽器

づくりのスキルを持ち併せているのです。これが、ヤマハ吹奏楽団の最大の長だと思えます。みんな楽器が大好きで、それを仕事にしている人たち。『楽器が好き』という思いを演奏で表現することが、50年の歴史を築き上げ、コンクールや演奏会などで評価をいただいている理由かもしれませんね」。

楽器づくりを知り尽くしたプロフェッショナルたちが自ら演奏することで、演奏の楽しさ、音楽のすばらしさを伝えていく。堀場さんは「あくまでアマチュアバンドですから」と謙遜するが、その実績

PROFILE

堀場 信明 (ほりば のぶあき)

ヤマハ吹奏楽団サブマネージャー
東京都出身。ヤマハ株式会社・管弦打楽器事業部B&Oマーケティング部企画課所属。普段はカタログやWebで管楽器を中心にPR業務を行う。4年半前から楽団のサブマネージャーを兼務する。担当楽器はユーフォニアム。2児のパパ。「仕事と楽団、家庭の3つを上手に並立するのが難しいですね。生活のほとんどがヤマハですから」。



ヤマハ吹奏楽団

<http://www.yamaha.co.jp/corporation/symphonicband/>
1961年、ヤマハ野球部の応援を主な活動目的とする同好会組織として結成されたプラスバンドが前身。その後、全国コンクール出場を目指し「ヤマハ吹奏楽団」として公式のクラブとなる。基本方針は「アマチュアバンドとしてよりよい吹奏楽を演奏することで、音楽文化の向上に寄与し、社会に貢献すること」。浜松まつりでの吹奏楽パレード、JR浜松駅前でのプロムナードコンサートなど、年間20回以上の演奏会を行い、浜松市が推進する「音楽の都・浜松」の発展にも貢献している。



堀場さんの重要な仕事のひとつに、毎年7~8月に開催される「浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバル」(浜松市と共催)の事務局運営がある。「国内外から100名以上の受講生が集まり、世界のトッププレーヤーによるハイレベルな指導を受ける機会を設けます。『絶対音楽家になる!』という熱い夢を持った人たちのお手伝いができるというのは、すごく充実感がありますね。実は私も、学生時代は音楽家になるのが夢だったので(笑)」。

ヘッドコーチが替わり、新戦力が加わった新シーズンも、フェニックスらしき「ひたむきなスタイルは不変である。バスケットに対する真摯な姿勢、ボールに対する執着心、仲間のことを気遣うプ

レイ。そういった部分をチーム丸とって追求し、練習から厳しくやっていこうと思っています。試合展開として目指すのは、攻守の切り替えを素早くし、攻撃回数を多く作ること。そして、応援して

くださる皆さんに「ひたむきにやる強さをお見せすることですね」。

もうひとつ、フェニックスが掲げるスタイルがある。それは「常に紳士たれ」の精神だ。「例えば「あいさつはしっかりと」とか「集合は迅速に」など、大人としてのモラルや振る舞い方といった部分をチームとして徹底しています。クリニック*に参加する子どもたちや試合を観戦してくれる人たちに、プレーだけでなく、人間性や気遣いの心といったものも伝えていきたいからです。僕たちのプレーや振る舞いを見た子どもたちが「将来、フェニックスの選手みたいな大人になりたい!」と思ってもらえたら最高ですね。泥臭いプレーもいとわないひたむきさ、プロチームとしての紳士的な役割。浜松から日本一のチームへと成長を遂げたフェニックスには、浜松人に通じる、人間味溢れる輝きと不断のスタイルが備わっている。すでにスタートした3連覇に向けての戦い。「浜松」の名を冠した王者たちは、「ひたむきにやる強さ」を胸に、新たな勝利を積み重ねていく。

※地元の小・中学生を対象に開催される、選手によるバスケットボール指導

浜松・東三河フェニックス開催日程
2011-2012 レギュラーシーズン

- 12/10・11 (浜松アリーナ)
VS滋賀レイクスターズ
- 12/17・18 (豊川市総合体育館)
VS信州プレブウォリアーズ
- 12/24・25 (所沢市民体育館)
VS埼玉ブロンコス

「浜松アリーナはすごく相性のいい会場。浜松の人たちは盛り上げ方が上手なので、気持ち良くプレーができるし、選手全員がいつもより燃えているのがわかります!」



「ひたむきな」という強さ

「スキルの他は他のチームと差はない。僕たちにはできるのは、ひたむきにプレーすることだけです」。

岡田キャプテンは、淡々とそう語る。ただ、ひたむきにやる。

浜松市初のプロスポーツチーム、浜松・東三河フェニックスは、そんなシブシブな理念を忍耐強く継続させることで、2年連続日本一の栄冠を勝ち取ることができた。

浜松・東三河フェニックス キャプテン 岡田 慎吾

PROFILE

岡田 慎吾 (おかだ しんご)
群馬県出身。2006年にチームの前身「OSGフェニックス東三河」に入団し、2010-11シーズンはキャプテンを務める。ポジションはガード。188cm・83kg、背番号は11。趣味はゲームと釣り。今期の目標は「毎試合2桁得点」

浜松・東三河フェニックス
<http://www.bj-phoenix.com/>
2008年よりbjリーグ(日本プロバスケットリーグ)に参入。ホームタウンは、浜松市と東三河地域(愛知県豊橋市、豊川市を中心とした地域)。略称は「浜松」。参入2年目の2009-10シーズンに初優勝、翌2010-11シーズンも優勝し、現在リーグ2連覇中。

波乗りのメツカに

プロロングボーダー・阿隅寛典さん。

昨年のJPSA(日本プロサーフィン連盟)

総合ランキングで10位という好成績を残したトッププロである。

2011年からは、自身が主催する

マンツーマン式サーフスクール「133サーフスクール」を立ち上げ、

初心者から中・上級者、コンペティション用のレクチャーまで対応している。



慣れ親しんだ遠州灘でサーフィンに出会い、高校卒業後、本格的にロングボードにのめり込んだ。日本代表のキャプテンも務めた実力者が今後歩いていく道筋。それは「サーフィンの楽しさを伝えたい」「浜松をサーフィンのメツカにしたい」という思いから形成されている。

たんです。でも、今は全然違う。みんなすぐフレンドリーだし、マナーも良いし、サーフィンと海を心から愛する人たちが集まっています。波がコンスタントにあつて、人が多くないから波待ちがしやすい。あと、風の影響を受けても、静波(静岡県牧之原市)や伊良湖岬(愛知県田原市)など、近くに風を回避できるポイントがあることも魅力です。こういった浜松のストロングポイントをもっと

PROFILE

阿隅 寛典 (あすみ ひろのり)

浜松生まれの浜松育ち。高校卒業後、19歳から本格的にロングボードをはじめ、早く間に日本屈指の実力者に。2003年のアマチュア時代にはNSA(日本サーフィン連盟)日本代表キャプテンに選出され、プロ転向後も国内外でつねに上位の活躍。ちなみに奥様もプロサーファー。
ブログ→<http://ameblo.jp/surfinbird133/>

もっと地元の人たち、そして他県の人たちに伝えていきたいですね。新幹線の停車駅があり、街中から海までが近いことも浜松のサーフィン環境が恵まれている点だそうだ。

「海」という自然を最大限に生かした、人の集まるスポットの構築へ。阿隅さんはこう付け加える。「例えば夏の間だけライフセーバーを設置したり、駐車場の管理体制を強化するといったよりサーフィンを楽しめる環境作りができればいいですね。そうすれば、浜松市は全国からもっとサーファーが集まって来る場所になりますよ。僕はそのための先導役として、さまざまな活動をしていきたいと考えています」。

サーフィン＝浜松。そんな言葉が聞こえ始めてきたら、「浜松」の印象は、また違った角度から浸透することになるだろう。阿隅さんの考えは決して机上の空論ではない。遠州灘ならではの強み、環境をダイナミックに活用できれば、可能性は十二分にあるのだ。



プロロングボーダー 阿隅 寛典



133サーフスクール

tel 090-7611-0282
surfinbird.133@docomo.ne.jp

問い合わせは、上記メールor電話にて(要2~3日前予約)。県外の方も大歓迎!スポンサードされている世界的サーフブランド(Hawaiian Pro Designs)のボードやウェットスーツの販売もあり。



「サーフィンは、自然をダイレクトに感じられて、水の中という非日常的空間にいるドキドキ感があり、そして、人と人とのつながりが生まれるスポーツです。ちょっと波が荒いのが難点ですが、やっぱり浜松の海は「波がいつもある」というのはサーファーにとってうれしいこと。中級者以上の方なら、間違いなく面白いと思いますよ。」